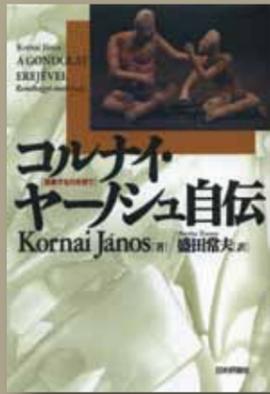


ドナウ の 四季

2011年・秋季号・No.12

私と音楽	盛田 常夫	1
夏のホームコンサート	桑名 一恵	2
ちょっとした疑問から始まった日本語との出会い	ネーメト・アニタ	4
リスト音楽院の魅力	チャロー・エディナ	5
緑の丘日本語補習学校	鷺尾 亜子	6
留学生自己紹介	赤星 南・奥野 里穂・誓山 藍・館岡 真澄	8
柔よく剛を制す	盛田 常夫	12
ハンガリーでのゴルフの思い出	岡崎 真二	13
ブダペスト日本人学校「ふれあい大運動会」	坂井 圭子・児童の作文	14
スポーツ行事・運動サークル情報		16



コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

— 思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判 / ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学部の定番テキスト。体制転換の理論と転換直後の現状を分析。各大学で教科書として使用。

盛田常夫著

第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の比較分析に新たな視点を提供。

第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。

ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著 日本評論社 定価3800円



私と音楽

盛田 常夫

大学教員になりたての頃、ゼミの学生を連れてスキー合宿に行った。食事が済んでカラオケタイムになり、フランク永井の「有楽町で逢いましょう」という定番の歌謡曲を歌ったが、学生たちはきょとんとしている。無理もない、この曲は学生たちが生まれる前にヒットしたものだ。彼らが歌うものは皆躍動感があって、テンポが速かった。歳の差を感じて白けたのを覚えている。

1988年に二度目のハンガリー長期滞在が決まり、すぐにブダペストのアパートにピアノを借りた。件のカラオケに懲りて音楽ジャンルを変え、日本から持参したのは小椋佳、来生たかお、井上陽水、五輪真弓などのニューミュージック系の楽譜。一人住まいだったので、毎夕、弾き語りで遊んでいたが、このハンガリー滞在中にさらに音楽のジャンル趣向が変わった。

1970年代の終わりにハンガリーに留学して初めてオペラ芸術なるものを知り、88年から2年間は足繁くオペラハウスに通った。とくに、モーツァルト「ドンジョヴァンニ」とプッチーニ「ボエーム」の二つのオペラは繰り返し鑑賞したが、出張の度にベルリン、ミュンヘン、プラハ、ウィーンでオペラ劇場を探し、「ドンジョヴァンニ」の舞台を楽しんだ。このオペラ熱が高じて、昼休みごとにペトーフイ・シャンドル通りの楽譜屋(ロージャヴェルジ)に通い、オペラのピアノ譜を買い漁りだした。ドイツのPeters Edition社のオペラピアノ譜を安く買えるので、ピアノ譜が入るたびに買い求めた。

「ボエーム」はプロの音楽家にも人気がある。マエストロ小林はルドルフの aria を弾き語りするし、やはり指揮者でハンガリーの故ルカーチ・エルヴィンは暗譜で「ボエーム」を振っていた。ピアニストの加藤洋之君も、我が家でいきなりムゼッタの aria を弾き出し、「これが好きなんだよね」と語っていた。このオペラはプッチーニの最高傑作で、これ以外のオペラは無駄があり退屈する。「ボエーム」は起承転結が明瞭で、aria やデュエットが散りばめられている。モチーフの旋律が一貫して流れて、時間的にも短い。そこが音楽家にも好まれるところだろうか。

私はピアノや歌唱の教育を受けていない。自己流だから、絶対的な限界がある。急に思い立って中学生の時に2年ほどピアノを習ったが、家にはオルガンしかなく、歯がゆい思いをした。しかも、団塊世代の受験競争で、すぐにピアノから遠ざかってしまった。それから数十年の時間を経て、1990年代初めに「炎の指揮者コバケン」こと小林研一郎さんと出会って、音楽の世界が広がった。「門前の小僧習わぬ経を読む」で、マエストロのリハーサルに立ち会ったり、ホームコンサートに来ていただいたりして、発声や歌い方などを教わった。ピアノは駄目でも、歌と一緒に弾き語りなら、なんとか形になるのではないかと、無謀にもオペラのピアノ譜で弾き語りに挑戦しだした。

幸い、私の周りにはたくさんの音楽家の友人がいる。もっとも古

い仲間が坂井圭子さんと、ハンガリー野村証券で最初に採用面接して以来、何かの催し物がある度に共演をお願いしている。ムゼッタの aria はホームコンサートの定番で、私が弾ける数少ない aria の一つ。ジョヴァンニとツェルリーナの Duettino は小さな集まりで披露するかくし芸。最近、国立フィルのバルタ・ジョルトとモルナル・ジュジャンナ夫妻のチェロとバイオリンをバックにして、歌曲や日本のポップスを歌うのが楽しみになっている。

昨秋来、日本へ出張する度に、機内で最新のポップスを聴いている。順々に最初の出だしの20秒程度を聴く。子供のグループがワイワイ騒いでいるような雑音は出だしの数秒で駄目を押す。長く歌い続けられる、しっとり聴かせるような旋律に出会うと、最後まで聴く。これまでの収穫は「コブクロ」。彼らが自分の味付けで古いヒット曲を歌っているのが気に入った。そこから、尾崎豊「I love you」と横原敬之「Answer」を選び、インターネットで楽譜を購入した。昨年のクリスマスはチェロ、バイオリン、ピアノをバックに Answer を歌った。ただ、これはもう20年ほど前のヒット曲ではない。もっと新しいものがないかと探していたら一つ収穫があった。「指輪」(Nagy & Ivory)のCDを購入したところ、「最愛」という曲が付属していた。「指輪」は結婚式などで結構使われているヒット曲だが、この「最愛」はほとんど知られていないいわゆるB面曲。ところが、「指輪」より詩も旋律も良く気に入った。これもインターネットでピアノ譜を購入した。今冬のクリスマスパーティにはこの曲の弾き語り披露できそうだ。

最近、バルタ・ジョルト夫妻からももらったセシリア・バルトリのCD がすごく良い。最初の曲がヘンデルのオペラ「リナルド」の aria 「私を泣かせてください」。彼女の歌には感情がいっぱい込められている。日本でも岡本知高がテレビドラマの主題曲として歌っているが、これは淡谷のり子が歌っているようで気持ち悪い。NHKの朝ドラで鈴木慶江が歌っていたのもこの曲だが、彼女が歌うと文部省唱歌になってしまう。バルトリを聴いてしまうと、やはり日本人には歌うのが難しいと考えさせられる。YouTubeを見ると、ニュージランドの若い歌手ヘイリー・ウェステンラもこれを歌っている。日本でも知られている歌手だが、彼女の「私を泣かせてください」は別の意味でいただけない。歌詞の内容を知らないのか、明るく一本調子に歌っている。マエストロ小林がこれを聴いたなら、「君は下手だね。歌詞を勉強したの? 家に帰って、もう一度歌詞を勉強してからいっちゃい」と、リハーサルから下ろされるだろう。7月のホームコンサートでは、ホストの特権で、バルタ夫妻に井上奈央子さんをバックにこの曲を歌わせてもらった。もちろん、バルトリが歌うように、心をこめて。(もりた・つねお)

夏のホームコンサート

桑名 一恵

7月16日(土)、ブダ側の閑静な住宅街にある立山研究所事務所にて夏のホームコンサートが開催されました。快晴に恵まれて高台にある事務所のベランダからは、ブダペシュトの町並みが遠くまで見渡す事ができました。

今回の出演者の皆さんも素晴らしく、リスト音楽院留学生、そしてハンガリー在住の日本人フルート奏者・ヴァイオリン奏者。ハンガリー人演奏家は、現在韓国の大学でピアノの教鞭をとっているピアノ奏者。国立オーケストメンバーでもあるヴァイオリン奏者とチェロ奏者。スペシャルゲストとして、リスト賞受賞者でソプラノ歌手のパースティ・ユーリアさんと、同じくリスト賞受賞者でピアニストのヴィラーグ・エメシュさんをお迎えの素晴らしいコンサートとなりました。

トップバッターの浅野衣美さんの演奏してくれた「さくら さくら」の変奏曲は日本を懐かしく思い出させ、大変心に届くものとなりました。

次に演奏されました野間里穂さんと佐野優子さんの1台のピアノを2人で弾くピアノ4手には、2人の息の合わせ方の難しさもあるとは思いますが、華やかで目でも楽しませていただきました。

フルートを演奏してくれた岩瀬塔子さんのカルメンは、切れもありテクニカルに魅せられた場所もあり、圧倒される気持ちのよい演奏でした。

ヴァイオリンの井上奈央子さんとフェーヘル・エルヌーさんは、普段より一緒に演奏される事があるようで、息もぴったり、お二人の演奏でのコミュニケーションが素晴らしく聞き惚れてしまった方も多かったと思います。

後半は、ハンガリー国立オーケストラで活躍のジュジャンナさんのヴァイオリンとジョルトさんのチェロ、ヘーディさんのピアノに井上さんも加わってバッハなど数曲演奏していただきましたが、さすがといわんばかりのプロの演奏を身近で聞いたことが幸せに思いました。そして今回の主催者でもある盛田さんの素敵な声も披露されて、このコンサートに華を添えていただき、

さらにコンサートが盛り上がりました。

ソプラノ歌手のパースティ・ユーリアさんには、5月の東日本大震災コンサート準備で、ソリストの選定とレッスンを引き受けていただいた縁で、今回のコンサートにお出でいただきました。実は、1994年に開店間もないケンピンスキーホテルで、小林研一郎ハンガリーデビュー20周年記念パーティを盛田さんが主催したおり、コバケンが11歳の時に作曲した「藤棚の下で」という歌を、コバケンさんのピアノで、パースティさんが歌われたことがありました。5月のコンサートの際にそのことを盛田さんがパースティさんに話されたところ、コバケン作曲の歌をハンガリーの作曲家が編曲して、それを歌ってホストの盛田さんに贈るというハプニングがありました。なにやらこっそりと音合わせしていたので何をやっているのかとおもっていたら、そういう仕掛けを用意されていたのです。こういう遊びの心をもって、歌われるパースティさんに今さらながら感心しました。

すてきな時間を耳と目で過ごした後は、ホームコンサートの醍醐味でもある立食パーティがありました。おいしそうな日本食や、ケーキ・お菓子類、たくさんの種類の飲み物、目移りするようなお食事を、皆さんで楽しい話をしながら頂きました。

コンサートの途中から日も暮れ始め、夜になった為、パノラマで見えていたブダペストの風景が一瞬にしてナイトビューになってまた違った雰囲気でお食事を頂く事が出来ました。

このホームコンサートによって、新たにお知り合いになれたハンガリー人のゲストの皆さんや、知ってはいたけど長く話したりする機会がなかった日本人の方々なども、改めてお話する事ができて本当に楽しいひと時でした。

次回にはまた、いろいろな演奏家の方々にもお声をかけさせていただければと思っています。

★野間 里保(ピアノ)

この度はホームコンサートで演奏させ

て頂きまして、本当にありがとうございました。ブダペストの美しい街が一望できる、素敵な事務所でのホームコンサートで、とても楽しく演奏することができました。留学でブダペストに来てから、「ホームコンサート」という機会によく出会うようになりました。聴きに来てくださった方々からは、気軽に演奏を楽しんでくださる様子が伺われて、ハンガリーの人々が音楽を必要とし、日常的に音楽と共に生活していることを強く感じます。今回のホームコンサートでは、とても美味しい日本食もご馳走になりました。日本食を食べたいがためにホームシックになることがよくあった頃でしたので、本当に嬉しかったです。ホームシックもその時解消されました。

このような機会をいただきましたことに感謝致します。

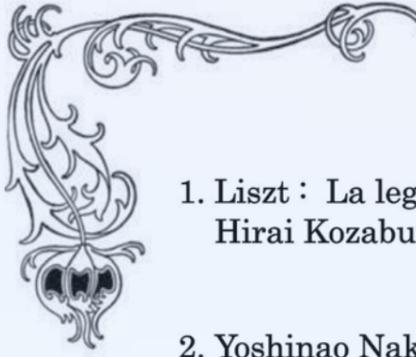
★浅野 衣美(ピアノ)

この度は素敵な機会を与えて下さりありがとうございます。素敵な空間で、ハンガリー人、日本人の皆さまに演奏を聞いて頂き、音楽家冥利に尽きます。私は今回のコンサートで素晴らしいフルーティストさん、ハンガリー人のプロの演奏家の方とも一緒に演奏することができ、個人的にもとても有意義なコンサートでした。このような場を与えて下さった盛田さんに感謝するとともに、少しでも私の演奏で皆さんに楽しんで頂けたのならとても嬉しいです!ありがとうございました。

★佐野 優子(ピアノ)

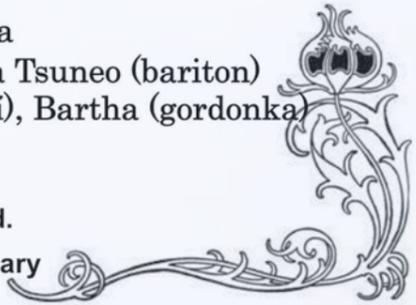
街の賑やかさから一変し、自然に囲まれた山上別荘のような素敵な会場に息を飲みました。刻一刻と移り変わる夕刻のブダペストを背景に、日本の曲、そしてハンガリーの曲を演奏させていただくことができ、とても幸せでした。

終演後には、バルコニーで夜景を見渡しながら出演者やお客様と共においしいお料理もご馳走になり、素晴らしいひとときを過ごさせていただいたコンサートでした。



Koncert Műsor

1. Liszt : La leggierezza
Hirai Kozaburo: Szakura szakura variation
Asano Emi (zongora)
2. Yoshinao Nakada: "From early autumn to mid-autumn"
Brahms: Magyar tánc No.1&5
Noma Riho & Sano Yuko (zongora négykezés)
3. Borne : Carmen Fantázia
Iwase Tohko (Fuvola), Asano Emi (zongora)
4. Brahms: G-dúr hegedű szonáta "Eső" Op. 78
Inoue Naoko (hegedű), Fehér Ernő (zongora)
5. J.S. Bach: Két hegedűsverseny BWV1043) - Vivace
J.S. Bach: c-moll hegedűszonáta BWV 1017- Siciliano, Allegro
J.S. Bach: Brandenburg No.5, 2. tétel
Inoue Naoko(hegedű), Molnár Zsuzsanna(hegedű),
Iwase Tohko (Fuvola), Bartha Zsolt (gordonka),
Barcsik Hédi (zongora), Asano Emi (zongora)
6. Liszt Ferenc : Ihr Glocken von Marling
Kodály Zoltán : Nauskaa
Mozart: Die Alte
Pászthy Júlia (szopránó)
Virág Emese (zongora)
7. Georg Friedrich Händel: Lacsia ch'io pianga
Morita Tsuneo (bariton)
Inoue (hegedű), Molnár(hegedű), Bartha (gordonka)
2011 Július 16-án (szombat)
Tateyama Laboratory Hungary Ltd.
1125 Budapest, Zsolna u.35/a, Hungary



ちょっとした疑問から始まった日本語との出会い

ELTE 大学大学院 ネーメト・アニタ

日本語を勉強し始めてから、数え切れないくらい「なんで日本語を選んだの?」という質問を受けました。それは良い質問ですね… 答えは、たいてい「ええと、まあ、それはね…」と口ごもることになりました。

高校生の時から日本文化・歴史などに興味を持っていましたが、日本語は難しすぎるから、私には絶対できないと思って、始めずに諦めていました。あの頃の私を、今も恥ずかしく思います。

数年後、職場での昼休みの時間、同僚がキッコーマン醤油のアニメ広告を見せてくれたとき、私は「ええっ、何、これ?」と口をあぐりと開けてモニターを眺めたまま、不思議な気持ちに襲われました。ショックを受けたような感じでした。「日本人の考え方を知りたいなあ! やっぱり日本語を勉強したいなあ!」というわけで、

勇気を奮い起こして、ついに仕事を辞めて、2008年9月、エルテ大学の日本学科で長い道を歩きはじめました。もちろん、理由はそれだけではありませんでしたが、今、省みると、無意義そうに見える以前の5年間の大学の勉強や4年間の仕事の後、やっと一生で一番胸を躍らせてくれる旅を始められたのは、その可愛いアニメを見たのがきっかけだったのです。

大学で与えられた課題は、あの時ひらがなさえ知らなかった私にとって確かに厳しかったですが、先生達の優しさや熱意のおかげで、この素晴らしい世界にだんだん深く飛び込んでいきました。これまでの3年間は、本当に夢みたいです。(本当にありがとう!)

そして、今年BA(学士)コースを卒業し、修士課程に進みました。BA卒業論文の課題に選んだ日本、特に東北地方における

シャーマニズムの現象の研究も続けたいと思っています。ハンガリーではシャーマニズムに関する研究は大変進んでいて、モンゴル民族などのシャーマニズムについての文献はとても豊富ですが、日本の民間宗教については、ハンガリー語で書かれたものはほとんどありません。その現象は、本当に複雑で面白いのに(私にとってだけか



な?)。ですから、都市化の影響でシャーマンが日本から消えてしまう前に、本を書いたり現地調査をしたりする、というのが私の将来の夢の1つです。

もう1つの夢は、翻訳家になることです。芥川龍之介の作品を翻訳してみた時、日本語の本当の美しさに気がきました。ハンガリー人が手に入れることができる日本の文学作品は、たいてい英語から翻訳されています。でも、本来の文章と英語から翻訳したものとは比べると、後者では、幾多の細かい表現が、言語の美しさとともに、無くなってしまっていることがすぐわかります。日本の文学はあまりにも優美ですから、やっぱり日本語から翻訳しないとダメだと思います。

3月11日のことは、言葉にならないくらいつらかったです。「どうしても、何か手伝えたい!でも、ハンガリーから何ができる

のか?ボランティアとして行っても、邪魔になるだけだし…」というように、何もできないと感じていました。もちろん、募金活動に関わったり、被災者のための色々なチャリティーイベントへ行ったりしましたが、それは、雀の涙です。やっぱり、足りません。

ですから、福島県と岩手県の学生たちが「絆プロジェクト」でハンガリーに来ると聞いた時、そのプログラムに参加したいと思ったのは当然でした。福島県と岩手県の子供たちは、たくさんのハンガリー人が日本のことを応援しようとしているのを感じたり、ハンガリーでいろいろな体験をしたり、仲間を作ったりできたら、新たな力で地元の人々にも勇気を与えることができるかもしれないと思いました。その2週間は、あつという間でした。子供たちは最初の1、2日は恥ずかしそうにおどおど過ごしていましたが、

それを乗り越えて、短期間で可能な限りたくさんの方を経験しました。ハンガリーの伝統的な活動(民踊、アーチェリー、おもちゃ作りなど)を体験したり、一生懸命ハンガリー語も勉強したりして、彼らの笑顔や精力が、反対にボランティアの私たちの力になってしまいました。そんな可愛い子供たちと会えて、本当に嬉しいです。心の底から。

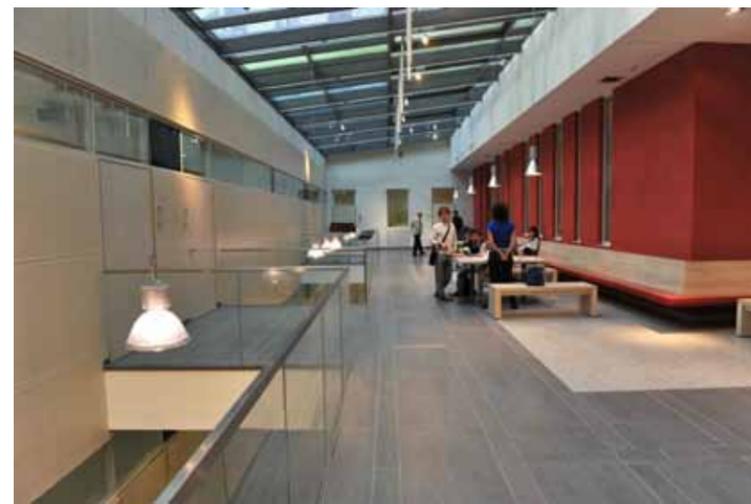
あいにく、私はまだ日本に行ったことがありませんが、それでも、ハンガリーから遠く離れたこの国から、感謝を表せないほど多くの事を教えてもらいました。実は、今でも、日本語はその魔法的な秘密のすべてを、どんなに頼んでも私に見せてくれないと感じることがあります。でも、その秘密を分かるようになるため、精一杯頑張ります。(ネーメト・アニタ)

リスト音楽院の魅力

チャロー・エディナ

小さい頃からずっと、「クラシック音楽」というとヨーロッパ人とアジア人が一緒に演奏しているイメージが頭の中に浮かびます。アジアの国々の中でも特に日本では、自分たちの伝統的な音楽と大いに異なるヨーロッパの「クラシック音楽」に興味がある人が多く、また著名なクラシック音楽家が大勢いるのはなぜだろうかと思っていました。しかし、今年の4月からその理由がだんだん分かるようになってきたと思います。私は子どもの時5年間ピアノを弾いていましたが、有名なピアニストになりたいという希望はありませんでした。音楽は好きですが、専門を選ばなければならぬ時が来たときは、外国語の勉強の道に進むことを選択しました。ブダペストのELTE大学で英語、それから日本語を勉強し、2011年2月に卒業しました。卒業後、就職活動のつらい期間にも、ヨーロッパ人とアジア人が一緒に演奏しているイメージがまた何回も浮かんで来て、日本からの留学生も勉強していそうなりリスト音楽院で、英語と日本語が

話せるアシスタントは必要ないかと伺ってみることにしました。教務課の部長に連絡すると、彼女は「いいアイデアですね」と言って喜んで私を雇ってくれました。急に、二つの大好きなこと(音楽と外国語)が繋がる仕事ができるようになり、大変うれしいです。ここで少し、リスト音楽院について皆様にお話ししたいと思います。ブダペストのリスト・フェレンツ音楽院の前身であるハンガリー王立音楽院は、ハンガリーの最初の高等音楽学校でした。1875年にフランス・リスト自身によって設立されました。現在、授業は5棟の校舎で行われています。6区のLiszt Ferenc広場にあるアル・ヌーヴォー様式の校舎は大規模改修工事のため閉鎖しており、2013年秋学期までに再開される予定です。7区のWesselényi通りにある新しい校舎は2011年9月に開館されて、私が働いている国際留学生課もここへ移りました。現在、リスト音楽院に通っている学生のほとんどはハンガリー人ですが、様々な国からの留学生もいます。日本からの留学生の数は60年代からだんだん増えていて、現在では日本人の割合がとても高く、国際留学生の半分以上です。ピアノ科で学ぶ留学生がほとんどですが、バイオリンやチェロを学んでいる人も多いです。日本人の教授も一人いらして、日本からの留学生にハンガリー語を教えていらっしゃいます。日本人の留学生がリスト音楽院を留学先に選ぶのは、音楽院の教授陣と学生の個性を尊重した教育に惹かれるからだそうです。バルトークの音楽が好きの方、コダーイ・メソッドという子供向けの音楽教育方法に興味がある方、ハンガリーの民俗音楽に魅了された方も何人かいるそうです。



リスト音楽院の新校舎の内部

新学期の登録週間は9月18日からの1週間でした。私は4月からこの音楽院で働いているのですが、登録週間が始まるまでは留学生と直接会う機会があまりなかったので、新しい学生との出会いを楽しみにしていました。登録週間の間に、日本人の留学

生は皆、親切で礼儀正しいと分かりました。これからも、留学生の人たちとたくさん交流しながら、できるだけ力になりたいと思っています。

今年にはフランス・リスト生誕200年を記念するリスト・イヤーで、リスト音楽院も様々な記念プログラムを催します。そのうちのひとつとして、2011年7月9日に東京藝術大学奏楽堂で行われた、リスト生誕200年記念リスト音楽院・東京藝術大学音楽学部コラボレーション・コンサートがあります。演奏会ではリスト音楽院での留学経験があるピアノ科教員らとリスト音楽院のピアノ教授であるドラーフィ・カルマーン教授が演奏しました。リストの誕生日である10月22日には、世界リスト・デーのイベントとして彼のオラトリオ『キリスト』が、リスト音楽院の管弦楽団によって上演されます。管弦楽団のメンバーの中には国際留学生も何人かいます。

私はこのような素晴らしい職場で働いて、とても幸運です。日本からの留学生やお客さんと上手く会話したり、ハンガリー音楽や一般的なヨーロッパ音楽と日本の音楽家との関係をもっと理解できるようになるよう、これからもがんばります。

(チャロー・エディナ)

【インフォメーション】

リスト音楽院のホームページ(日本語版): <http://www.lfze.hu/japanese>
リスト・イヤーに関する情報: http://rapszodia.hu/Liszt_ev.html
「音遊人 (みゅーじん)」という雑誌の2011年09月号は「生誕200年—フランス・リストを求める旅」という特集です。

フリー、フリー、子どもたち！ 鷲尾 亜子

「え～、困るよお～、どうにかならない？」
意外や意外、日本人学校の運動会と、友人宅に招待されたのが同じ9月11日で重なってしまったと告げた時の息子の反応である。
息子は補習校で3年生になり、クラスで男の子一人になってしまった。去年は同級生の男の子たちと運動会を経験したが今年はそれが無理になったので、知らない環境が大の苦手な息子は、友人宅への訪問を選択すると私は踏んでいたのである。
しかし、昨年初めて参加させていた運動会がよほど楽しかったのだろう。参加する気、満々である。友人家族には事情を説明して、前日にずらしていただいた。そして今年も、母と息子でお弁当を持ってネープリグトに車を飛ばすことになったのである。

国旗掲揚からパン食い競争、リレーまで
当日は、これ以上の「運動会日和」はないだろうというほど空は晴れ渡り、8月のような暑さだった。そして運動会は、まるでNHKの9時の時報でも聞いたのだろうかと思うほど時間ピッタリに始まった。さすが日本人学校、と最初から感嘆。競技場に並んだ白に紺のユニフォームに、赤白の帽子の子どもたちが眩しい。息子は、今年も「白組」になれたので嬉しそうだ。（「赤」は女の子っぽくて嫌なのだそうだ。）

国旗掲揚に始まり、初めの言葉、優勝杯・準優勝杯返還、校長先生の挨拶、と一通り続き、準備運動。その後は早速、競技開始。日本人学校の低学年生徒さんや幼児向けの競技の後、紅白玉入れがあり、補習校の子どもたち、お父さんお母さんも参加させていた。続いてパン食い競争。口にくわえてロープから取るというのが意外と難しいようだが、息子はしっかり戦利品を持ち帰り、誇らしげだ。

しかし息子を最も誇らしくしてくれたのは、短距離走と、1-3年生リレーだった。どうやら今年はピストルの音でスタートするのも慣れた上、相手が女の子たちだったので短距離走は1等賞だった。リレーでも、グループをビリから2位まで持ち上げた。普段国語の授業では追いつくのに必死だが、足だけは速いらしい。

続く綱引きでは、低学年グループでは2回対戦して2回とも白が負けた。高学年グループでも白は全敗。大人の対戦でようやく1回勝利。応援にも思わず力がいった。
午後は応援合戦、組体操と日本人学校の生徒さんたちの演技が続き、皆よく息が合っており、この日に向けて練習をさぞかし沢山したのだろうと感服した。息子も、組体操は食い入るように見ていた。そして幾つかの競技の後、最後に一般参加者と高学年以上のリレーがあり無事終了。残念ながら白組は負けてしまったが、今

年も息子は銀メダルを頂き、昨年の銀メダルと一緒に部屋に飾っている。

ブダペストと真ん中の異次元空間
それにしてもこのハンガリーでの運動会は、日本の運動会の正しい在り方を踏襲しており、補習校のほとんどの子どもたちにしてみると、一つ一つが珍しい。しかし私のような日本人の親にしてみると、一つ一つが懐かしい。

補習校のあるお母さんが競技場で、後ろでハンガリー人が「Szia!(やあ!)」というのを聞いて、「あらやだ、ここはハンガリーだったんだ」と思わず笑っていたが、そんな錯覚をさせるほど当日のネープリグト競技場の一角は、日本のようであった。

ラジオ体操一つとっても、息子は生まれて2回目だったから周囲の見よう見まねで、手足がぎこちなく動いていたが、こちらは音楽に反応してナン十年も眠っていた神経回路にスイッチが入って、手足が勝手に動く。

先生がピストルを空に向け、撃つまでの緊張感。「バンー！」と空気を割る音の後、かすかにたなびく白い煙とつんとした火薬の匂い。綱引きの、編みこんだ綱の太さ、持っていがいがする感覚。紅白の玉が、籠をめがけて青い空を舞い交差する姿が郷愁を誘い、胸の隅っこがほんの少しだけ痛くなる。

そして、短距離走の音楽。大陸ヨーロッパのど真ん中で、あの定番の曲が聞けるとは思わなかった。ちなみに今回調べて、この曲が「クシコスの郵便馬車」という題名ということを知ったが、これが実は原題はハンガリー語“Csikós Post”であるということを知り、心底驚いた。作曲家はヘルマン・ネッケというドイツ人で、なぜ原題がハンガリー語なのかまでは突き止められなかったが、当地在住者として嬉しい発見であった。

やはりリレーや短距離走は、この音楽がないと緊張感や興奮が高まらない。そもそも選曲した人のセンスの良さにも敬服するが、これが日本全国津々浦々、何万校とある学校のどこでも、そして既に何十年も変わらず使われているという実態にも圧倒される。

しかし私が真に懐かしさを感じ、また同時に改めて感心したのは、こうした小道具的なことはさておき、運動会に見た「組織力」かもしれない。日本人学校の児童生徒さんたちの各種目でのてきぱきした動き。先生方が主導で企画されているのであろうが、子どもたちはそれに単に乗っかり参加しているのではなく、司会から始まり、「パン食い競争のパンを持つ役」、「短距離走のゴールテープを持つ役」、「1等の子を連れてきて並ばせる役」というように主体的に役割を分担しながら構成しているという点である。そしてその陰で、スムーズに進行するよう、先生方と保護者が支えている。

「運動会文化」
実は、日本の学校にいた頃は、運動会にしても学園祭にしても、

「何でも全員で役割分担しながらやる」というのが窮屈でたまらなかつた。会社組織などのような集団にも『3:4:3の法則』があると。つまり最初の3割はモチベーションが高く意欲的に働く人たち、4割は普通の人たち、最後の3割はモチベーションが低く働く意欲が乏しい人たちと言われる。自分が小中学生の時、このように3つに分けて考えていたわけでは当然ないが、運動能力も、参加する意欲も練習する意欲もまだらな集団の中であって何でも全員参加型、というのに多少なりとも違和感を覚えていたのである。

しかし今更ながら運動会を再び体験して、日本の運動会というのは実によくできていると感心する。種目も個人戦あり、団体戦あり、また運動能力だけを競う競技だけではなく、レクリエーションの要素が強いもの、集団で練習して連帯性がなければできないものと多岐に渡る。そして、個人別や横ではなく学年縦割りで「赤組」「白組」と分けて、結束力を図る。違和感を覚えていたものも、何十年もたってみると憑き物が落ちたみたいにその目的が理解でき、それなりに評価できる。ただそれも、日本から出て、外から我が国を見られるようになったからかもしれない。



こうした日本の「運動会文化」を経験することができる補習校の子どもたちは、非常に恵まれていると思う。日本の学校には日本の学校なりの良さがあり、ハンガリーや国際学校にはまた、日本の学校にはない良さもある。その2つを経験できるのだから。
息子は、来年は4年生以上のリレーに出場すると張り切っている。補習校の子どもたちもまた、来年の運動会を楽しみにしている。そしてきっと日本人学校の児童生徒さんたちも、

フリー、フリー、子どもたち！

* * * * *
最後に、「ふれあい大運動会」に参加させていただきましたこと、関係者の方々にはこの場をお借りし心からお礼を申し上げますと存じます。日本人学校の校長先生を始め、先生方、またPTAの方々におかれましては、当日はもちろんのこと、事前の企画、準備は大変な作業であったことと察します。補習校の子どもたちが楽しむことができたのも、裏での目に見えないご苦労やご尽力があったからこそであり、保護者の一人として、また補習校運営委員の一人として改めてお礼申し上げます。

インターネットで人生の楽しさを広げましょう！ オトナももっと遊ぶ時代

人生に夢と輝きを BYOOL SNS ~The Best Years Of Our Lives~

BYOOL SNS (Social Networking Service)は、大人が楽しめるユーザー参加型のWEBサイトです。スマートな大人が集まるグローバルな知的空間を目指しています。現在、10ヶ国の海外に住む日本人が参加しており、国を超えて、文化や政治・経済始め、幅広い分野において、情報発信、議論を行なっています。あなたの知的好奇心を満たしてみませんか？

- ★参加方法：事務局まで参加希望の旨、メールをお願いします。招待メールをお送りします。
BYOOL事務局 Email: admin@byool.com 「BYOOL Bloggers」 <http://www.byool.com>
- ★お問い合わせ：上記事務局アドレスまでお問い合わせください。

日記・エッセイ  自分のページを持てる。 日記、エッセイ、ブログ、 記録として。	コミュニティ  同じ興味・関心を持つ 仲間との交流の場。 OB/OG会にも。	豊かき・輝き  様々な人の意見・情報のシェア、 そこから生まれる新しい 発見や気づきが、 人生を豊かに輝きあるものに。	安心・安全  無料会員制。 SNSのメンバーだけが利用 できるクローズドなサービス なので、安心安全。
--	--	--	--

書き込みはすべて非公開にできますので、スケジュール管理や、何か自分の記録をつけたり、コミュニティをグループの連絡用に使用していらっしゃるメンバーもいます。

BYOOL Selection

BYOOLでは、品質にこだわり抜いた無農薬・有機栽培の緑茶知覧茶・有機緑茶と、コクのある味わいの知覧茶・深むし茶を皆様にご紹介しております。国内でも有数のお茶の産地として知られる鹿児島県知覧町の、全国茶品評会などのコンクールで、上位入賞経験を持つお茶園から、直接取り寄せました。環境に優しく、そして、人に優しいお茶で、心落ち着かす優雅なひとときをお過ごしください。 **BYOOL Selection: <http://byool.open365.jp/>**

自信に繋がった5年間
セグド大学医学部
赤星 南

私は今セグド大学医学部に通っています。私がここまでホームシックにもかからず頑張ってきたのは両親、セグドの人々、ブダペストの町、大学の仲間がいたからだと思えます。

私はシンガポールの高校を卒業したと同時にセグド大学に入学をしました。海外生活自体に不安は感じませんでしたが、初めての一人暮らしにはいささか心細さがありました。両親とフェリヘジ空港に着き、ブダペストに一泊してからセグド行きの列車に100kgの荷物を転がしながら乗りこみました。発車してから1時間、景色は田んぼ、林、



新しい家に帰れば部屋は真っ暗。「本当に1人になったんだ」来た当初のセグドはマクドナルドさえも英語が通じませんでした。アジア人が珍しいのか、町を歩けば振り返ってまで私を見る人や指を指しながら話している子供たちが目につきました。サインを漢字で書けば「これは中国語？あなたの名前なの？こっちにも書いてみて」と紙を渡されたり。初めは居心地が悪い場所でしたがだんだんこの状況が楽しくなってきました。周りはハンガリー人ばかりでアジア人は私だけ。手をぶんぶん振りながらメイン通りを歩き「ていやんでい、私はアジア人だ。見るならどんと見ていけい」なんて調子に乗りながら町の探索を続けました。新しい言語を身につけるのも楽しくて、日本で

購入したハンガリー語の本を片手にスーパーへ入って塩を探したり、温泉に行ってみたりと1人で冒険をしていました。無知というのは強いもので、とりあえず伝わればいいという気持ちでいると間違えながら話すことが恥ずかしくはありませんでした。むしろ、初めて使った言葉が相手に通じるのがとても嬉しくて外に出るのが楽しかったです。ポジティブに考えられるのが自分の長所なのか、大学が始まるまでの時間は毎日ワクワクして過ごしていました。数日間前に感じていた不安はとっくになくなっていました。

大学では色々な人に出会い私がセグドで勉強をするうえでの支えになってくれました。セグド大学にはたくさんの国からの生徒が通っています。私のグループはイス

ラエル人、イラン人、ノルウェー人、ソマリア人、ギリシャ人、キプロス人、インド人、スリランカ人、韓国人、台湾人がおり他のどのグループよりも色々な人種がいました。初めは戸惑わされることが多かったです。待ち合わせには早くても10分は遅れるし、自己主張が強く、たまにめちゃくちゃな理由で先生を言い負かしていました。はっきりと物ごとを言えない私は土足で私の部屋に上がる友達になんと行っていいかわからず、些細なことではありますが思い切り悩んだこともあります。「私はすごい人たちと一緒になりました」。初めはそう思っていました。なんとなくグループと一緒にいるのが居心地悪く、韓国人の生徒と話すのが一番落ち着きました。

ですが、初めての解剖学の口頭試験の時、私は彼らと同じグループで本当によかったと思う出来事がありました。筆記試験しかしたことのない私はパニックになり、勉強したことも全て吹っ飛びました。試験官が優しく質問してくれますが、半泣き状態の私には答えられません。ふと顔をあげてまわりを見渡したら試験官の後ろに座っているグループの生徒たちと目が合いました。そしたら皆が口をそろえて「あなたならできるから落ち着いて答えてごらん！」恐る恐る、試験官に聞かれた骨の部位を模型で指さします。またちらっと皆を見たらにっこり笑って縦にたくさん頷いてくれていました。もういくつかの質問をされ、答えを一言だけ言ったり、指でさしたりして試験は終わりました。この間皆はずっと見守ってくれました。私はあまりの情けなさに、1人で部屋を出た外のベンチで体育座りをして鼻水をずずず垂らしながら落ち込んでいました。そこにグループの生徒が1人来て一緒に座ってくれました。「一緒に勉強して頑張ろうね」私がこれまでの5年間、ここにしがみついて来られたのはこんな仲間がいたからです。個々の理由で今ではほとんどの人とばらばらになりましたが、あの時皆が支えてくれたから私は強いれたのだと思います。

ブダペストの町は私を励ましてくれたも

のの一つです。ブダペストは古い建築物がそのまま残されています。ほんの少しの知識しかありませんが、この町の魅力を感じるには十分でした。ハンガリーに来た最初の秋に地図を片手に1人で観光をしました。東駅の近くに部屋をとり、そこから興奮していた私は走ってエリゼーベト橋まで一直線に向かいました。川を渡りゲッレルトの丘の頂上を目指して、途中でおそらくインチキな賭博をしているのであろうおじさん達を横目に駆け上りました。丘の上から見下ろす町の景色は素晴らしいものでした。少し肌寒い季節で空も曇っていましたが、それがより一層ブダペストの古い建物が引き立って見えたように思えます。1人暮らしを始めたばかりの18歳の私にとって1人で英語があまり通じない異国の土地を歩くというのはとても意味のあることでした。今までは親に頼りっきりでいた私は1人になることに心細さを感じていました。1人で観光するということは大それたことではありませんが、少しばかりの自信に繋がりました。

5年は長かったけれど中身の詰まった時間だと思います。いろんな人や出来事に支えられたから頑張ってきた。残り2年と短い期間しか残っていませんが、悔いのない時をセグドで過ごしたいと思います。

留学生活で思うこと
リスト音楽院大学院ヴァイオリン科
誓山 藍

ハンガリーに来るきっかけになったのは2年前のぎふ・リスト音楽院のマスターコースでした。そこで現在のヴァイオリンの先生であるヴィルモシュ・サバディ先生に出会いその音楽の素晴らしさに触れました。そして私自身が外国自体に興味があり、好きな音楽を学べてしかも外国に行けるとするのは素晴らしいチャンスだと思い、わくわくする気持ちを胸にハンガリーに来ました。

そして一年目、ハンガリーに着いてからは早速、地図やガイドを持って色々な場所に探検しに行きました。王宮や国会議事堂

が見えるドナウ川沿いを歩いて自分は本当にいま外国にいるんだ！と実感し、すぐにブダペスト市内の観光名所はほとんど回り、ウィーンやスロヴァキアなど外国にも行きました。スロヴァキアなんて一生行くことも



ない縁のない国だと思っていたので、旅行して素晴らしい自然やお城を見た時には感激でした。生活自体も楽しく、スーパーに行っても日本とは並んでいる品物が違うし色々な食材を使っておいしかったり失敗してまじかったり…。そして色々なハンガリー人やハンガリーで学ぶ日本人と友達になり一緒に遊んだり、何をしても全ては新鮮で素晴らしく楽しく思えました。

しかししばらく時間が経って冬頃からヴァイオリンの勉強のことでとても悩むようになりました。なぜなら私は同じ学校で学んでいる他の学生達より音楽の知識も経験もなく、ヴァイオリンの実技の方も不十分だと感じたからです。他の学生はとても勉強熱心かつ自分のコンサートを開いたりコンクールを受けたりなど目的がはっきりしていて、向上心もあり努力も怠らず音楽や自分と真剣に向きあっている人達ばかりなのです。それに比べると自分は外国に行ってみたいという勢いだけで来たものの内容が伴っていないことに気づき悩みました。

それからはなんとか少しでも上達しようと練習の仕方や生活を変えてやってみるのですが、全く自分の思ったように行かず逆に悪くなっていくような気がして、自分は何のためにもわざわざ留学しているのか、本当にヴァ

イオリンの勉強をしたいのかといった考えがずっと頭のなかをぐるぐる回りました。また冬はとても寒く私は市内から少し離れた場所に住んでいるのですごく雪が積もっていて長時間外にいるとすごく寒く、一度扉が氷つ

いて開かずに凍えて日本の大阪では体験できないようなハプニングもあり大変でした。そして春になると雪が溶けてきれいな緑と花に街が包まれる暖かい季節になりみんな活気づきます。こっちは春はとても爽やかで気持ちが良く散歩に行ったり友達と会って話しているうちに気持ちも明るくなっていったのだからあまり堅く考えすぎず、いま目の前のあることに関心を持ったり楽しんだりすることも思えるようになりました。

さらに初夏になると学生達の卒業コンサートが多くなってきます。コンサートはどれも本当に心に残るような演奏ばかりで、その素晴らしい理由は演奏の上手さではなくそれぞれ演奏者が頑張ってきた証だからだと思いました。そういったものは短い時間では手に入らないし自分もうまくいなくても、現状を楽しみつつ少しずつ前進していくことが大事だと気づきました。いまは留学2年目でリスト音楽院のマスターコースに入り授業や練習で忙しい日々です。まだ自分の勉強はまだ始まったばかりです。これから自分が理想とする音楽に近づけるように色々なことに挑戦して、またハンガリーでの生活を楽しまつつ頑張りたいと思います。

柔よく剛を制す - 「なでしこジャパン」の快挙 -

盛田 常夫

予選リーグを勝ち上がる程度の力はあるとは思っていたが、まさかベストフォーに進出し、決勝まで進むとは誰も予想していなかっただろう。その決勝戦で勝負がついたと思われた終盤に追いつき、延長でも残り三分で再び追いついた。こんなドラマはめったに見られない。相手のショックの大きさが思いやられる。PK戦に臨むアメリカの選手は皆緊張の面持ちで、最後の最後で失点したショックを引きずっていた。それがPKを外したり、止められたりした大きな要因だ。勝負事は追いついた者の方が気持ちの上で有利になる。儲けものと笑顔でPK戦に臨んだ日本の選手とは好対照だった。

私が観戦したのは決勝トーナメントから。3試合すべてを見たが、驚いたのは準決勝のスウェーデン戦。立ち上がりの不用意な横パスから簡単に得点を許すというミスはあったが、それ以外は完勝だった。いつかは必ず点が入ると確信できるほど、ボールを支配し得点機を作っていた。この試合は多分、今大会における日本チームの最高のゲームだっただろう。とにかく細かなパスが途切れないう。足許にしっかりとボールを収め、相手を取りに来る前にパスする。スウェーデンの選手はすぐにボールを奪われ、奪おうとすると簡単にかわされるので苛立ち焦り、プレーが雑になった。まさに「壺にはまる」とはこのことだ。ゆっくり球を回して相手をじらしながら、チャンスになるとパスのスピードを上げて一挙にサイドにボールを配給する。後半には日本のボール回しについていけず、疲れも重なってスウェーデンの守備陣はばたばたしていた。ハンガリーのコメントーターは、「日本チームはブラジルのようだ」と感心していた。バルサのパスサッカーにも擬えられたが、それほどまでに日本の技量が際立った試合だった。これほど意思が統一され、各選手が高い技量をもっているとは驚きだ。身体能力の高い欧米の選手相手には、技量に加えて相手に走り勝つスタミナが勝負を分ける。先行されても慌てず、最後まで勝負を諦めないチームを作った佐々木則夫監督の手腕が高く評価されるべきだ。「なでしこジャパン」

をすぐに官邸に招いた菅首相は澤選手に統制術を学びたいと言っていたようだが、ここでも人を見る目のない節穴を暴露した。表舞台で活躍する選手ではなく、選手をやる気にさせる佐々木監督の手腕を見習う必要があるのだが、それが分からないから人を束ねることができない。

正直言って、決勝リーグの第一戦ドイツ戦で日本チームは敗退すると思っていた。相手は開催国でW杯三連覇を狙うドイツ、しかも今まで勝ったことのない相手だ。案の定、ドイツが仕掛け、日本が守るという構図になった。日本チームは獅子奮迅の動きでドイツのチャンスをことごとく潰した。日本チームは相手が前がかりになると、後方でボールをゆっくり回して、相手の勢いを押さえる戦術をとる。このペースに嵌まると、相手は空回りし出す。いくらチャンスを作っても得点に結びつかない。開催国として絶対に負けられないという焦りが、次第に攻撃を雑にさせた。とはいえ、日本がゴールを奪う気配はまったく感じられなかった。予選リーグと違って、決勝トーナメントはゴールを入れなければ次に進めない。PK戦になるかと思われた最後の時間帯に、相手の裏に入る澤の一本のパスで丸山が抜け出し、ほとんど角度のないところからゴールを決めた。途中出場だからこそ、延長後半でも走り負けせず、ボールを力強く蹴ることができた。澤の戦術感や技量は褒められるべきだが、佐々木監督の選手起用の手腕を見逃せない。

いくらチームに勢いがあっても、実力に大きな違いがあれば、自から勝負は決まる。アメリカの女子サッカー人口は世界最大。代表チームは大きなサッカー人口の底辺で支えられたエリートたちだ。ドイツ以上に身体能力が高く、スピードがある。体の大きさから言えば、日本の男子チームと変わらない。誰も公言しなかったが、ほとんどのサッカー関係者はアメリカの優勝を予想していただろう。

案の定、試合開始からアメリカはエンジン全開で突進して、日本は防戦一方になった。最初の10分間に少なくともアメリカに

3度の決定機があった。ここで日本が失点していたら、大敗しただろう。しかし、日本には運があった。ほんの少しのズレが、日本を救った。そして、10分過ぎから日本が後方でボール回しを始めた。ボールを落ち着かせ、相手の気負いを削ぐ。強豪相手にはこうやってペースを引き寄せる。さすがにアメリカ相手ではスウェーデンのようにパスで圧倒することはできないが、次第にボールをもつ時間帯が増え、前半は五分のボール支配率に戻した。

しかし、後半に入っても何度も決定機を与え、ついには一瞬のカウンターの速攻を受け、パス一本でゴールを決められてしまった。後半24分である。日本にほとんどチャンスがなかったから、誰もがこれで勝負は決まったと思った。ユーロスポーツのコメントーターもアメリカの優勝を語りはじめていた矢先、右サイドから日本のセンタリングが入り、アメリカのDF2人が慌ててミスキックをしたこぼれ球を宮間が押し込んで同点にした。残り10分である。これで俄然、ゲームがエキサイトし出した。泥臭く押し込んだゴールには勝負に賭ける執念がこもっていた。

ところが再び、延長前半の終了間際、アメリカのエース、ワンバックに強烈なヘディングを決められた。「日本善戦も万事休す」というニュースの見出しが頭に浮かんだ。延長後半もアメリカに押し込まれ、もうこれでお仕舞いと思った終了3分前、左コーナーキックを澤が絶妙な角度から合わせ、またしても同点に追いついたのだ。神がかり的な同点劇だ。キック力が劣る日本にはPK戦の勝ち目はないと思っていたが、同点のショックを引きずったアメリカの選手たちが異常にナーヴァスになり、PKをことごとく失敗してくれた。勝負の綾を教えてくださいましたゲームだった。

改めて、身体能力の劣る日本人が世界で勝つための基本を教えられたような気がする。柔よく剛を制す。優れた戦術観、基本的な技量、圧倒的な運動量があれば、個々の選手の力が実力的に劣っていても、チームとして個の総和以上の力を発揮できる。そのことを教えてくれた女子W杯だった。

(もりた・つねお)

ハンガリーでのゴルフの思い出

岡崎 眞二

今年10月16日に帰国することになり、長い間お世話になった日本人ゴルフ部よりハンガリーでのゴルフの思い出等についての執筆依頼を受けましたので、誠に僭越ですが以下のとおり綴って見ました。ご一読頂けたら光栄です。

日本ではほとんどやっていなかったゴルフ、55歳でハンガリー



Royal Balaton Golf & Yacht Club にて

駐在の辞令を受け、1999年6月にハンガリーに赴任し、ゴルフにはまりました。土・日はほとんど通いましたので、12年間の駐在で、多分、800回以上はゴルフ場に通ったことになりそうです。その所為でゴルフ部の皆様からは「鉄人」と呼ばれ光栄です。

ハンガリーでのゴルフはプレーの面白みもありますが、非常に良い運動になります。ご存知のとおり、日本でのゴルフはほとんど電動カートでラウンドし、途中でビールを飲みながら昼食が一般的で運動にならないのに比べ、ハンガリーでのゴルフは歩きで途中の昼食もなくラウンドするので、8kmぐらいアップダウンのあるところを歩くことになり、体力勝負の一面が強いです。

また、ゴルフの魅力のひとつは60歳代の高齢者でも20歳代・30歳代の若者と対等に本気でプレーできるのが魅力です。その意味で、技量・経験+頭脳のスポーツの気がします。体力のある20歳代・30歳代の若者でも簡単にスコアアップは難しく、皆、苦勞しています。

本題のハンガリーでのゴルフの思い出ですが、ハンガリーには18ホールゴルフ場が現在、休止中も含め、7ヶ所あると思えますが、メンバーになっているゴルフ場以外にも良く行き、それぞれ思い出があります。

メンバーになっているPannonia Golf & C.C.はバンカーや池などの障害物は少なく、フェアウェーも広く、伸び伸び打てますが、距離が長いのに加え、グリーンへの傾斜がきつかったり、芝目がきつくパターが難しいゴルフ場です。12年間も通ったのに90を切れず大変残念です。唯一、誇れるのは、2009年秋のマッチプレー大会で優勝できたことで、最高齢(当時65歳)での優勝とのことで、主催者「大吉」の店主から褒められ大変光栄です。

この他に、心に残るのがRoyal Balaton Golf & Yacht Clubです。

バラトン湖の絶景を見ながらプレーできるゴルフ場で、再度ハンガリーに来ることがあったら、もう一度訪れたい所です。ただ、このゴルフ場は前半が池やバンカーが多く、後半は両側が背の高い林や崖越えの難所が多く、タフな設計になっており、バラトン湖の絶景を楽しんでいる余裕はありません。

また、毎年開催されるパノニアワールドカップ(日本選抜、欧州選抜、米国選抜、韓国選抜)の思い出ですが、今年はこのことがありました。

小生と一緒にラウンドした選手は、ドイツ人とオーストリア人でした。大震災による福島原発が問題になっている時期であったので、プレー中もこの問題が議論になり、ドイツは「原発廃止を決めた」、オーストリアは「原発ゼロの国である」と言われ、日本の原発に対する方針を責められ、ゴルフのスコアも散々の結果になりました。しかし、インターナショナルにこのような議論ができたのも良い思い出です。

その他、毎年一回開催される日本人各国駐在員(ハンガリー、オーストリア、チェコ、スロバキア)ゴルフ部対抗戦での思い出もいくつもあります。いつも行きのバスの中では酒の勢いもあり作戦会議で盛り上がりますが、帰りのバスの中は反省ばかりです。「なでしこJAPAN」のように、行きも帰りも盛り上がりたものです。

それでは最後になりますが、ハンガリーよ、さようなら、ハンガリーでのゴルフ人生は私の一生の思い出、宝物物です。

(おかざき・しんじ)

さくら DESIGN

CI、広告、ロゴ、ホームページ等
名刺1枚からご希望の言語にて
デザイン致します。

各種パッケージ、インテリアのデザイン、
内装工事、翻訳から印刷まで
幅広く受け承っております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

SAKURA DESIGN: info@innerdesign.hu
Inner Design Group · 1021 Budapest, Bognár utca 7.
Tel/Fax: 1-200 3213 · Mobile: 06 20 480 4431

www.innerdesign.hu



ブダペスト日本人学校「ふれあい大運動会」 ～ハンガリー日本商工会協賛～を終えて

「ふれあい大運動会」と命名するため

に、我々日本人学校教職員は頭をひねりました。各々が考えたネーミング案を、さらにみんなで練り合っただけで決定した名前です。

今年度の大運動会は、雲一つない晴天の中、開催されました。日中は30度を超えていたでしょうか。お弁当の時間には、グラウンドにひとっこ一人見あたりませ

ん。日陰になっているトラックの四方で、水分補給をしている大人や子ども達が見えます。これほどまでに天気を心配しなくてよい運動会があったかなと思ったほどです。幸い、大きなけがや事故もなく、時間通りに競技を終了することができました。金メダルをもらった子、銀メダルをもらった子、それぞれが練習の成果を遺憾なく発揮し、すがすがしい顔をして帰途につきました。

今年度も幼児のみなさんや他校の児

童生徒のみなさんがたくさん参加して、和気藹々とした運動会となりました。保護者のみなさんの協力体制もしっかりしかれており、「ふれあい大運動会」の名にふさわしい時を過ごすことができたのではないかと感じております。

協賛いただきましたハンガリー商工会の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。



【小学部児童感想】

小1 菊地 裕晴

ほくが、一ばん心にのこったのは、たんきより走とリレーです。なぜなら、たんきより走でさいしょはみんなにこされちゃったけど、さいごには一ばんになったし、リレーは赤ぐみにまけちゃったけど、みんなさいごまでいっしょうけんめいあきらめないで走ってがんばったからです。

小2 渡辺 優姫

ファイトウゲザーをいっぱい練習したから、とってもよかったです。そして、本番までにじょうずにできてよかったです。

小3 寺田 那奈

はやい、はやい!

いよいよ大玉おくりが始まりました。私はお父さんと大玉をころがしました。

私の番が来た時、おねがドキドキしてきました。2年生の子とタッチをしてころがし始めました。すると、プロレスの音楽が流れてきました。お父さんは音楽が流れたしゅんかんに、走るのがはやくなりました。私はいきなりはやくなったので、お父さんにおいて行かれそうになったので、思いっきり走りました。私は、次の人にタッチをして私の番は終わりました。最後に赤が勝ったのでよかったです。

小4 酒見 佑一

「ドッコイショー、ドッコイショ。」

ほくは力いっぱいさげびました。

今日は、楽しみにしていた運動会。会場に行くまで、ドキドキしていました。運動会で心に残ったことが、ほくには四つあります。

一つ目は、運動会の一番の思い出で、組体操です。組体操の中でも、特に頑張ったのは、南中ソーランの中で大きな声でかけ声をかけたことです。お母さんもほくの声が聞こえて、嬉しかったと喜んでいました。着ているぱっぴを一番目立たせた所は、まるでわしの羽をくると回転するように、はっぴのすそをつかんでまわった所でした。ほくはその動きを毎日練習していました。「LOTUS」や「パリは燃えているか」などの曲も、失敗はあったけど最後までできたのでよかったです。

二つ目は、パン食い競争です。運動会の一ヶ月前に、パン食い競争があると知ったほくは、恥ずかしいことに、子守君に何十回も、

「パン、おいしい?何パン?ねえ、パンおいしい?」
と言ってしまふほど、楽しみにしていました。いざ食べてみると、パンのうまいことうまいこと。ほくはおもわず、「おほっ、ふっ、うまっ。」

と言ってました。パンを口で取る時、初めのうちは「一秒で取ってやる」と思っていました。でも、やってみると難しく、袋にかみついて7秒ほどで取れたので、なんだかやっしかったけど嬉しかったです。

三つ目は、応援合戦です。先に白組がやって、ダンスも歌もはりきってやりました。しかし、赤組のダンスを見ると、スピードと迫力に押されてしまいました。

四つ目は、運動会をやるための練習です。ほくは応援合戦のダンスのウェーブを覚えるのがすごく難しかったです。ソーラン節も最初は「無理!」と思っていたけれど、練習のおかげで最高の演技ができたと思います。

これからも何かにいっしょうけんめいに取り組むことを頑張っていきたいと思います。



小5 寺内 さくら

今日は、私が楽しみにしていたふれあい大運動会でした。私が一番楽しみにしていた競技は「組体操」です。なぜかという今まで一番練習してきたからです。反対にすごく心配していたのは短距離走です。なぜなら、競走は苦手だし、お母さんに「絶対一位になってね」と言われたけど、一位になる自信がなかったからです。

いよいよ短距離走で、私が走る番がきました。

手を振って頑張って走ったけど、結果は二位でした。一位になれなくてくやしかったです。でも、お母さんは「よくがんばったね」と言ってくれて、本当にうれしかったです。頑張ったよかったです。

そして、昼ご飯も食べ終わり、色々な競技が終わって、ついに私が楽しみにしていた組体操が始まりました。ワーツと大声をあげてグラウンドの真ん中に走って、最初の位置につきました。心臓がドクドクと打つを感じました。音楽が始まりました。逆立ちも、練習の初めのころよく失敗していました。でも、昼休みに私は学校の芝生のところで更ちゃんと一緒に練習してきました。そして、お互いに確実にできるようになりました。本番ではみんなが成功して一番うれしかったです。

私の苦手な「みこし」の場面がやってきました。わたしは4人の友達に担ぎ上げられ少しこわかったけど、意外と早く終わった感じがしてうまくいきました。それから、しょう乳洞、ドナウ河、くさり橋、ブダの王宮、そして、ヤーノツシユ山など次々に難しい大技がうまいき、見ているみんなが拍手をしてくれて、本当にうれしかったです。南中ソーランも暑くて大変だったけど、姿勢を低くして最後までがんばっておどりました。

そして終わりに結果発表がありました。私は、たぶん赤が

勝っているなと思って緊張はしていなかったけど、赤組の友達が喜んでのを見て、「本当に赤が勝ったんだ」とうれしく思いました。私は今まで3回運動会をして全勝しているので、今年で4回目の優勝です。来年も優勝したいです。

小6 八木 孝道

今日、小学校生活最後のふれあい大運動会がありました。ほくは白組になりました。

6年生担当の係りはラジオ体操と整理運動でした。ほくは中心になって体操する役になりました。始めは簡単だろうと思いましたが、鏡のようにみんなの逆でやらないといけなかったり、かかとを上げるところとそうでないところを区別しないといけなかったり、練習が必要でした。本番はすごく緊張しました。でも「体操隊形に開け」と大声を出すと落ち着いてきました。「かかと」を意識して、「右から、右から」と心の中で言いながら間違えないように頑張りました。号令が大きな声で出来、うまくできて達成感を味わうことができました。

午前中の種目では同点だったり、ちょっとの差で勝ったりと白組が少し有利でした。でも、ほくは得点よりも組体操が楽しみでした。なぜなら体育の授業で練習を重ねて、笛の合図に合わせて上手に演技できるようになったからです。本番では、一曲目の最後の「みこし」のところで少しタイミングがずれてしまい失敗してしまいました。でも、その他は完璧と言えるぐらいの出来栄でした。うまく行って本当によかったです。南中ソーランも腰を低くするように心がけて踊れたので精一杯できたと思います。結局、白組は負けてしまったけど、色々な競技を頑張れたので悔いはないです。

また、来年は中学部になって大変だろうけど一生懸命運動会ができればいいと思います。

スポーツ行事・運動サークル情報



2011年秋季ソフトボール大会の結果(商工会主催)
 優勝:笑好会Cチーム、準優勝:商工会Aチーム
 3位:デンソーBチーム

バドミントン部

中学校の体育館の2面を借りて、毎週日曜日に2時間程度の活動をしています。女性と子供も若干いますが、運動不足の素人おじさん集団です。はじめの30分間は練習、その後ダブルスの試合を行っています。経験者が少ないので、週末の運動不足解消という気持ちで続けています。

ラケットは会場で貸し出し出来ますので、室内シューズを持ってきて頂ければいつでも参加可能です。参加費は、当面1,000HUF/大人(試合に参加しない子供はタダ)です。

今年の夏は参加者が減り、部の存続の危機に瀕していますが、新規赴任の方に経験者が居るとの噂。冬の運動不足解消のためにも、興味のある方は是非参加ください。

- ① 現在の部員数
 大人:10名(女性は2名、他に時々参加の方が10名ほど)
 子供:3名(小学5年、3年、1年)
- ② 活動場所と時間帯
 日時:毎週日曜日の午後4時から2時間
 場所:中学校体育館(ブダペスト2区、Kokeny u. 44.)
- ③ その他の活動
 ウィーン日本人バドミントンクラブとの交流会
 飲み会
- ④ 代表の名前と連絡先
 代表:升谷 裕司 問合せ先:hujpbad@gmail.com

ゴルフ部

<月例会結果>

- 6月 優勝:坂梨(丸紅)、2位:成沢(伊藤忠)、3位:石橋(住商)
- 7月 優勝:青島(矢崎総業)、2位:川口(日本人学校)
 3位:高濱(東洋シート)
- 8月 優勝:川口(日本人学校)、2位:陸川(三井物産)
 3位:青島(矢崎総業)
- 9月 優勝:加藤(大林組)、2位:横平(菱和)、3位:町野(スズキ)

<第14回「大吉杯」マッチプレー選手権結果>

- 2011年4月~8月
 優勝:飯尾(大吉)、2位:柿崎(スズキ)、3位:成沢(伊藤忠)

<第15回「大吉杯」マッチプレー選手権 途中経過>

- 2011年8月~10月
 坂下(ブリジストン)、三木(伊藤忠)、平松(住友商事)
 柿崎(スズキ)、辻(日清食品)、金広(ユーラシア)
 川口(日本人学校)、成沢(伊藤忠)
 =以上、9月24日現在での勝ち残り=

○ゴルフ部新入部員歓迎
 連絡先:古城 e-mail: manabu.furuki-nnr@dachser.com

日曜テニス部

<2011年活動報告>

- 1.練習
 1)時間:毎週 日曜日 AM9:00~11:00
 場所:マッチポイントテニスコート。
 メンバー登録人数:9名
 コート:クレーコート(1面使用)
 冬季シーズン開始:2011/Oct/9(日)~
- 2.メンバー募集
 冬季メンバーの募集をしています。
 ご興味のある方は幹事までご連絡をお願いします。
 幹事:的場 e-mail:h-matoba@exedy.com
 携帯 :+36-30-487-1970

編集部よりのお知らせ

「ドナウの四季」のHPが完成しました。これまで掲載されたすべての原稿を読むことができます。
<http://www.danube4seasons.com>
 皆様の原稿をお待ちしています。エッセイ、ハンガリー履歴書、自己紹介、サークル紹介などの記事をお寄せください。提出いただいた原稿は、紙面統一の編集のために修正することがあります。修正した原稿は執筆者の校正をお願いしています。
 原稿は電子ファイルで、morita.magyar@gmail.comへお送りください。Word文書あるいは一太郎文書をお願いします。EXCEL形式での提出はお控えください。写真および図形は別ファイルで送付ください。



秋季ソフトボール大会授賞式



Royal Balaton Golf & Yacht Clubにて



Propart Hungary Bt.

各種コンサート企画・製作・国際交流イベントを中心とした業務の運営。ハンガリーを拠点にグローバルな企画・マネージメント展開を行っています。お気軽に、御相談下さい。

- ・音楽企画/マネージメント
- ・若手音楽家の育成サポート
- ・国際交流事業企画運営
- ・留学/音楽研修サポート
- ・短/長期賃貸物件仲介
- ・各種通訳
- ・翻訳サポート
- ・買い/レンタルピアノ仲介
- ・輸入/輸出楽器仲介

ハンガリー国内出張演奏、各楽器講師紹介なども随時承っています。

Propart Hungary Bt.
 Address: 1089 Budapest, Kőrös utca 25. II/6
 Tel&Fax: +36-1-786-7846
 Mobil: +36-70-3815548
 e-mail: propart@chello.hu
 web: <http://propart.client.jp/>



Kenichiro Kobayashi

2011 in Hungary



10月29日

ヴェルディ「レクイエム」

19:00 開演 Richter Hall, Győr

共演 ジュール交響楽団、国立合唱団

Sümegei Eszter (ソプラノ)

Wiedemann Bernadett (アルト)

Kiss B. Attila (テノール)

Kovács István (バス)

11月1日

ヴェルディ「レクイエム」(東日本大震災追悼公演)

19:30開演、MÜPA (芸術宮殿) Budapest

共演 ジュール交響楽団、国立合唱団

Sümegei Eszter (ソプラノ)

Wiedemann Bernadett (アルト)

Kiss B. Attila (テノール)

Kovács István (バス)

11月4日

ベートベン「交響曲第3番 エロイカ」

ストラヴィンスキー「火の鳥」

19:30開演 イタリア文化会館 Budapest

共演 MÁV交響楽団

11月5日

ベートベン「交響曲第3番 エロイカ」

ストラヴィンスキー「火の鳥」

19:30開演 コダーイ文化センター Pécs

共演 MÁV交響楽団